

2019年5月8日 国土交通政策研究所政策課題勉強会

まちづくり・地域づくりと ソーシャル・キャピタル

国土交通政策研究所 要藤正任

本日の発表の詳細は以下の書籍に



- 第1章 今、なぜソーシャル・キャピタルなのか？
- 第2章 ソーシャル・キャピタルをどう測るか？
- 第3章 ソーシャル・キャピタルは地域の経済を成長させるか？
- 第4章 住民主体の活動は地域の価値を高めるか？
- 第5章 新たな指標で地域間の違いを測る
- 第6章 ソーシャル・キャピタルはいかに形成されるか
- 第7章 ソーシャル・キャピタルは世代間で継承されるか
- 第8章 家庭内で継承・共有されるソーシャル・キャピタル
- 第9章 家庭やコミュニティが及ぼす影響
- 第10章 豊かで持続可能な地域社会に向けて

2018年12月に慶應義塾大学出版会より出版(税抜き価格 4600円)

本日の発表は、主に4章、7章、9章の内容をもとにしたもの。

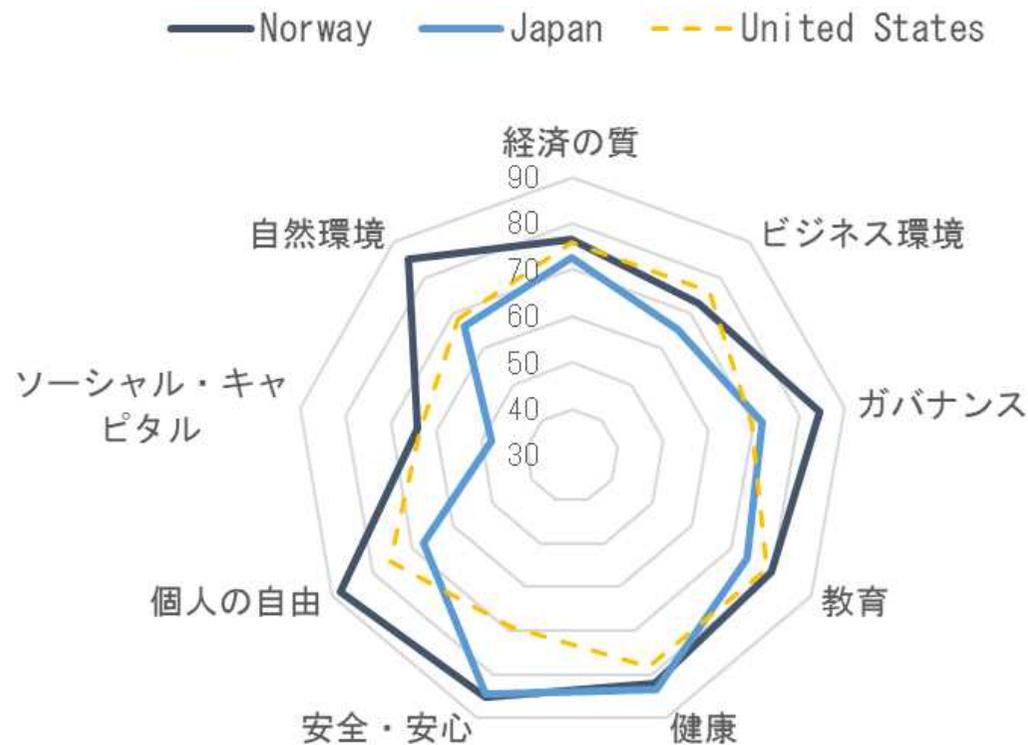
本日の発表の内容

1. ソーシャル・キャピタルの概要
 - ・ソーシャル・キャピタルの概念
 - ・豊かさとの関わり
 - ・測定の方法
2. ソーシャル・キャピタルと地域活動
 - ・アンケート調査による指標化
 - ・ソーシャル・キャピタルと地域活動参加との関係
3. 地域活動による経済的効果
 - ・地域活動(エリアマネジメント)による地価への影響
4. ソーシャル・キャピタルを豊かにするためには
 - ・世代間での継承
 - ・ソーシャル・キャピタルの外部効果
5. まとめ

ソーシャル・キャピタルと豊かさ

- 英国のレガタム研究財団 (Legatum Institute) が公表している「繁栄指数 (Prosperity Index)」では日本は23位。
- 各評価項目をノルウェーや米国と比較すると、日本の評価が特に低いのはソーシャル・キャピタル。

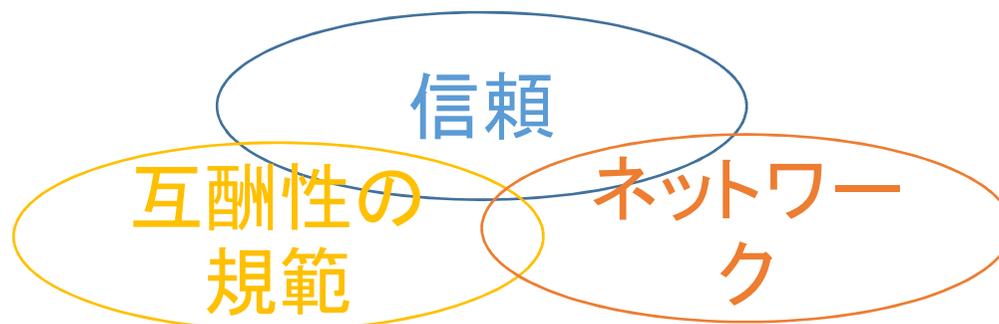
国・地域	総合順位	繁栄指数
ノルウェー	1	79.85
ニュージーランド	2	78.57
フィンランド	3	78.46
スイス	4	77.64
スウェーデン	5	77.59
オランダ	6	77.33
デンマーク	7	77.06
カナダ	8	77.03
オーストラリア	9	76.98
英国	10	76.92
ドイツ	11	76.41
アイルランド	12	76.12
アイスランド	13	76.06
ルクセンブルグ	14	75.71
オーストリア	15	75.24
ベルギー	16	74.24
シンガポール	17	73.53
米国	18	72.83
フランス	19	72.01
スペイン	20	71.42
スロベニア	21	71.31
マルタ	22	70.66
日本	23	70.40
香港	24	69.83
ポルトガル	25	69.55
チェコ	26	69.24
エストニア	27	69.16
ウルグアイ	28	67.40
コスタリカ	29	66.69
イタリア	30	66.20



出典)レガタム研究所「Legatum Prosperity Index 2017」

ソーシャル・キャピタルの概念

- ソーシャル・キャピタルは、



といった人と人との関係に着目した概念であり目には見えないもの。

- 研究者によってその定義は様々であるが、ソーシャル・キャピタルに関する世界的な研究者である米国の政治学者ロバート・パットナムは、「個人間のつながり、すなわち社会的ネットワークおよびそこから生じる互酬性と信頼性の規範」と定義している(Putnam 2000)。

ソーシャル・キャピタルがもたらすもの

- 集合的行為問題の解決

パットナムやオストロムは、ソーシャル・キャピタルが集合行為問題(「共有地(コモンズ)の悲劇」や「囚人のジレンマ」のように、人と人との協調の失敗により関係者全体の厚生が低下してしまうこと)の解決に寄与する点に着目(Putnam 1993, Ostrom and Ahn 2009)。

- 経済活動の効率化

経済活動を考えた場合、取引において取引相手との信頼関係や相互の規範は取引コストに影響する(Knack and Keefer 1997, QJE)。また、ソーシャル・キャピタルは市場の質を支える市場インフラの一つ(Yano 2018)。

- 幸福を支える資本

『OECD幸福度白書3(How's Life 2015)』は、未来の幸福(Well-Being)のための資源として、「自然資本」「人的資本」「経済資本」に加えて「ソーシャル・キャピタル」を挙げている。

ソーシャル・キャピタルをどう測るか

- 様々な研究者が様々な指標を利用。

- 代表例としては、世界価値観調査における以下の質問。

“Generally speaking, would you say that most people can be trusted or that you can't be too careful in dealing with people?”

- OECDは、既存研究の様々な定義を整理し、ソーシャル・キャピタルを以下の4つの側面から把握することを提案 (Scrivens and Smith 2013)。

	ネットワーク構造と活動	生産的資源
個人的	個人的ネットワーク (Personal Relationships)	社会的ネットワーク・サポート (Social Network Support)
集合的	市民参加 (Civic Engagement)	信頼と協調の規範 (Trust and Cooperative Norms)

Scrivens and Smith(2013)表1.1を元に作成。

JST-RISTEXプロジェクト※におけるアンケート

- 調査実施機関：NTTコム オンライン・マーケティング・ソリューション
- 調査方法：インターネット調査
- 実施時期：第1回調査 2017/03/01～2017/03/10
第2回調査 2017/07/24～2017/07/28

	合計	性別		年齢					
		男性	女性	30歳未満	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
第1回調査	11371	6911 (60.8%)	4460 (39.2%)	502 (4.4%)	2447 (21.5%)	2165 (19.0%)	2159 (19.0%)	2859 (25.1%)	1239 (10.9%)
第2回調査	7498	4682 (62.4%)	2816 (37.6%)	281 (3.7%)	1493 (19.9%)	1445 (19.3%)	1481 (19.8%)	1967 (26.2%)	831 (11.1%)

	居住地				職業				
	大都市(東京23区、政令市)	中都市(人口10万人以上)	その他の都市(人口10万人未満)	町・村	仕事はしていない(専業主婦・主夫、学生、引退された方ほか)	勤め人(会社、団体などに従業・勤務している人)	自営業主(飲食店・卸小売店・農業等)	自由業者(医者・弁護士・会計士・税理士等)	その他
第1回調査	4174 (36.7%)	2613 (23.0%)	3628 (31.9%)	956 (8.4%)	3,928 (34.5%)	5,958 (52.4%)	812 (7.1%)	304 (2.7%)	369 (3.2%)
第2回調査	2842 (37.9%)	1753 (23.4%)	2278 (30.4%)	625 (8.3%)	2,643 (35.2%)	3,890 (51.9%)	543 (7.2%)	198 (2.6%)	224 (3.0%)

※ 国立研究開発法人科学技術振興機構社会技術研究開発センター「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域「ソーシャル・キャピタルの世代間継承メカニズムの検討」プロジェクト

ソーシャル・キャピタルに関する質問

- 本アンケートでは、地域活動やソーシャル・キャピタルに関する様々な質問を取り入れている。

(他人への信頼)

以下の項目について、1. 大半の人は信頼できる、～10. 極めて注意深く接する必要がある、の10段階で回答。

- ①一般的に言って、ほとんどの人は信頼できると思いますか、それとも人と接するには用心するに越したことがないと思いますか。
- ②「旅先」や「見知らぬ土地」で出会う人に対してはいかががでしょうか。
- ③あなたがお住まいになっている地域の人に対してはいかががでしょうか。

(互酬性の意識)

「人を助ければ、今度は自分が困っているときに誰かが助けてくれる」ということに同意するかどうかを尋ねる質問の回答を利用。

ソーシャル・キャピタルに関する質問(cont.)

(地域資源の共有意識)

- 地域活動への参加は、OECDの分類では「市民参加」に対応する指標の1つ。
- このため、活動への参加の背景にある意識やモチベーションに着目。これは、その個人の協調的な規範の意識と密接な関わりをもつものであり、OECDの分類における信頼と協調の規範に対応。
- 具体的には、地域資源(地域みんなが共有して利用しているもの)と地域活動(地域資源を守り充実させるための取組み)に着目し、以下の質問の回答を利用(6つの質問の回答の平均を利用(最小1～最大5))。

地域資源	<p>地域資源についてのあなたのお考えをお訊きします。以下のような考えに、あなたはどの程度同意しますか。</p> <p>項目1 自分が積極的に関わることで、地域資源を守ったりより充実させていきたい。</p> <p>項目2 地域資源は、地域みんなが協力して、その価値を守ったり充実させていくことが必要だ。</p>
地域活動	<p>「地域活動」に対する以下の考え方に、あなたはどの程度同意しますか。</p> <p>項目1 「地域活動」が積極的に行われることはよいことだ。</p> <p>項目2 「地域活動」には積極的に参加したい。</p> <p>項目3 「地域活動」には、地域の全員が積極的に参加すべきだ。</p> <p>項目4 「地域活動」には、特定の世代の人だけではなく、様々な世代の人が参加すべきだ。</p>

実際の地域活動参加と作成した指標との関係

- 地域活動に積極的に参加している人は、他人への信頼や互酬性の意識が高く、両者には正の相関。
 - 地域資源の共有意識の高い人も、地域活動に積極的に参加している。
 - 地域活動に参加していない人を、自分が住んでいる地域で地域活動が行われていることを把握している人と、その存在を知らない人と分けて比較すると、地域活動の存在を知らない人の方が、他人への信頼、互酬性の意識、地域資源の共有意識は低い傾向がある。
- ソーシャル・キャピタルの高い人は地域活動に関するアンテナも高く、こうした活動に興味をもっている可能性。

	地域活動への参加頻度							全体の平均
	ほぼ毎週	月に2、3日程度	月に1日程度	年に数回程度	参加していない	地域活動を把握	地域活動を知らない	
他人への信頼								
一般	6.699	6.347	6.126	6.047	5.333	5.543	5.281	5.715
旅先や見知らぬ土地	6.395	6.008	5.831	5.721	5.198	5.360	5.158	5.492
地域	7.004	6.642	6.483	6.445	5.570	5.887	5.492	6.016
互酬性の意識	4.066	3.873	3.858	3.724	3.402	3.588	3.357	3.587
地域資源の共有意識	4.471	4.119	3.968	3.705	3.207	3.412	3.157	3.515
サンプル数	256	706	1,204	3,256	5,949	1,171	4,778	11,371

ソーシャル・キャピタルと地域活動参加との関係

- 他人への信頼、互酬性の意識、地域資源の共有意識の高さが、地域活動への参加にどのような影響を与えているかを、プロビットモデルと呼ばれる手法を用いて検証。
- 地域活動に参加しているかどうか(参加していれば1, 参加していなければ0)を被説明変数として、ソーシャル・キャピタルやそれ以外の個人属性による影響を検証。
- ソーシャル・キャピタル(特に「地域資源の共有意識」)の高い人は、地域活動に参加する傾向がある。

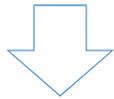
被説明変数	(1)		(2)	
	地域活動への参加		地域活動への参加	
他人への信頼	0.046	(0.008) ***	0.038	(0.009) ***
互酬性の意識	0.068	(0.015) ***	0.066	(0.015) ***
地域資源の共有意識	0.728	(0.023) ***	0.722	(0.023) ***
女性ダミー	-0.136	(0.028) ***	-0.145	(0.032) ***
年齢	0.020	(0.007) ***	-0.009	(0.008)
年齢二乗	0.000	(0.000)	0.000	(0.000)
配偶者ありダミー			0.436	(0.046) ***
離婚ダミー			0.180	(0.071) **
死別ダミー			0.369	(0.108) ***
子どもダミー			0.224	(0.038) ***
持家ダミー			0.423	(0.033) ***
[学歴]				
高卒未満ダミー			0.176	(0.095) *
専門学校卒ダミー			-0.128	(0.051) **
短大・高専卒ダミー			-0.039	(0.050)
大卒以上ダミー			-0.036	(0.033)
[就業形態]				
就業なし(学生・主婦・主夫等)			-0.065	(0.034) *
自営業主			0.231	(0.053) ***
自由業者			0.021	(0.082)
家族従業者			0.306	(0.138) **
在宅就労・内職			-0.099	(0.121)
委託労働・請負			0.094	(0.120)
[世帯年収]				
0~400万円			0.058	(0.036)
600~1000万円			0.010	(0.038)
1000万円以上			-0.172	(0.051) ***
[世帯金融資産]				
0~400万円			-0.157	(0.044) ***
600~1000万円			0.060	(0.051)
1000万円以上			-0.033	(0.047)
pseudo R-sq	0.172		0.213	
N	11263		11263	

注1) ()内は、不均一分散に頑健なロバスト標準誤差。

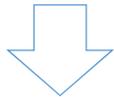
***、**、*は、それぞれ1%、5%、10%の有意水準で有意であることを示す。

エリアマネジメントによるまちづくり・地域づくり

ソーシャル・キャピタル



住民等主体のまちづくり・地域づくり



地域の価値(豊かさ)の向上

以下では、この関係を検証

近年、住民等を主体とするまちづくり・地域づくりの活動は「エリアマネジメント」と呼ばれている。

エリアマネジメントの定義

「地域における良好な環境や地域の価値を向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体的な取り組み」

(国土交通省土地・水資源局(2008)「エリアマネジメント推進マニュアル」)

分析の方法

<ヘドニック・アプローチ>

環境の価値が、地価や住宅価格等の不動産価格に反映されるという資本化仮説を背景とし、環境条件の違いがどのように地価等に反映されているかを観察し、それをもとに環境の便益の推定を行う手法。

具体的には、以下の推定式を用いて、最小二乗法により推定を行う。

$$\ln(P_i) = c + \beta \cdot AM_i + \alpha_1 X_{1i} + \alpha_2 X_{2i} + \cdots + \alpha_k X_{ki} + \varepsilon_i$$

P :地価

AM :エリアマネジメント活動が行われていれば1を、それ以外では0をとるダミー変数

$X_1 \cdots X_k$:地価に影響を与えるその他変数

c :定数項

ε :誤差項

地価地点を商業地と住宅地に区分し、

上式を用いて、

- ・全国・関東・近畿を対象に
- ・2010年、2014年の2時点について推定。

エリアマネジメントによる環境価値、経済価値の向上

〈エリアマネジメントの効果〉

〈地価との関係〉

①まちなみや景観の改善



景観の改善が地価に正の影響
(国土交通省都市・地域整備局(2007)など)

②防災・防犯・安全への影響



犯罪発生率の低下が地価に正の影響
(沓澤ほか(2007))
災害(地震)の危険度低下が地価に正の影響
(Nakagawa et al. (2009)など)

③賑わいや集客の向上

④消費活動や売上、雇用等への効果



当該地域の不動産価値を高めることにつながり、収益還元的な資産価格決定の考え方に基づけば、地価の上昇要因となる。

こうした複数の経路を通じて、
エリアマネジメント活動は地価に対して正の影響をもたらす。

分析に用いるデータ

○地価のデータ

国土交通省が毎年実施している「地価公示」、都道府県が毎年実施している「都道府県地価調査」のデータを地価データとして利用。このデータには調査地点の地積、用途、容積率等の情報も含まれている。

○エリアマネジメントのデータ

京都大学経営管理大学院、和歌山大学経済学部、国土交通省都市局まちづくり推進課が平成26年に実施したエリアマネジメントに関するアンケート調査(以下、「エリアマネジメント・アンケート」という。)を利用。

(調査対象)

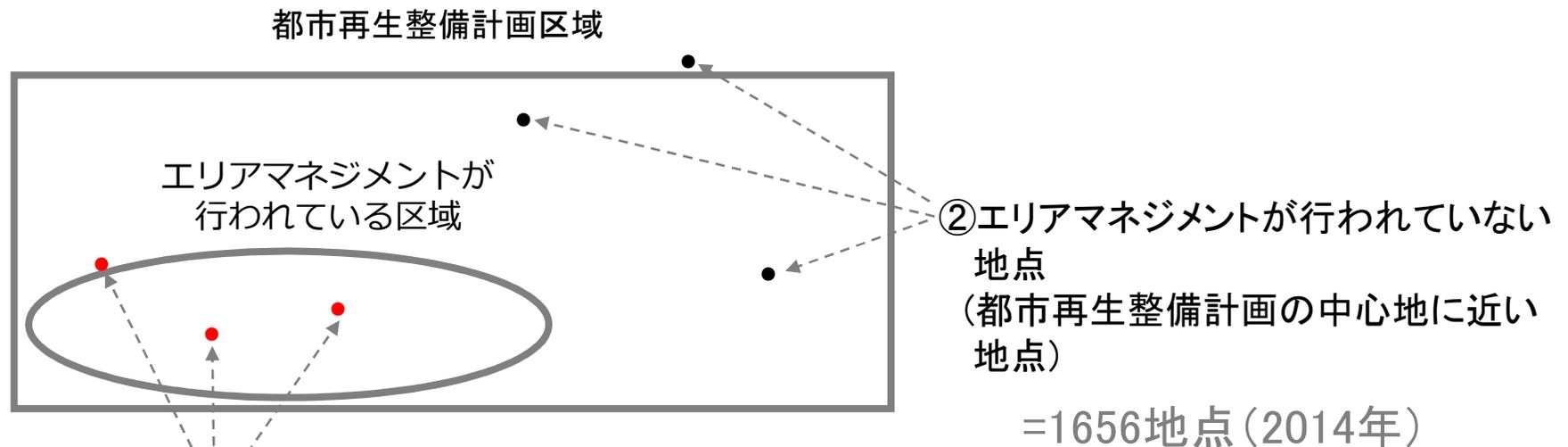
都市再生整備計画※を策定済み市区町村のうち、次に該当する地区を有する市区町村
(計826市区町村、対象地区1524地区)

- ①平成24年度末までに計画が終了した地区(第二期計画継続中のものを含む)
- ②計画進行中であって、都市再生推進法人等がエリアマネジメントを実施している地区

※ 都市再生特別措置法第46条に基づいて市区町村が策定する地域の創意工夫を反映した総合的なまちづくりの計画

分析に用いるデータ(cont.)

- エリアマネジメント・アンケートでは、都市再生整備計画区域内およびその近傍の地価公示及び都道府県地価調査地点の有無を質問(一つの都市再生整備計画区域につき最大3地点)。
- 地点がある場合、その地点がエリアマネジメント活動の効果が及んでいると考えられる地点かどうかを質問(下イメージ図)。



- ① エリアマネジメントが行われている区域
又はその近傍の地点
(複数ある場合は、都市再生整備計画の中心地に近い地点)
=388地点(2014年)

推定結果(全国)

	(1) 商業地 2014年	(2) 商業地 2010年	(3) 住宅地 2014年	(4) 住宅地 2010年
エリアマネジメントダミー	0.109 (0.046) **	0.040 (0.050)	-0.067 (0.052)	-0.143 (0.058) **
前面道路幅員(m)	0.005 (0.002) **	0.007 (0.002) ***	0.032 (0.011) ***	0.023 (0.011) **
地積(m ²)	0.000 (0.000) **	0.000 (0.000) *	-0.003 (0.000) ***	-0.002 (0.000) ***
地積二乗項	0.000 (0.000)	0.000 (0.000)	0.000 (0.000) ***	0.000 (0.000) ***
最寄り駅までの距離(km)	-0.020 (0.007) ***	-0.014 (0.006) **	-0.040 (0.006) ***	-0.034 (0.006) ***
容積率(%)	0.003 (0.000) ***	0.003 (0.000) ***	0.000 (0.000)	0.000 (0.000)
ガス	0.306 (0.045) ***	0.291 (0.049) ***	0.421 (0.037) ***	0.410 (0.038) ***
下水道	0.144 (0.064) **	0.114 (0.066) *	0.148 (0.045) ***	0.141 (0.047) ***
土地の形状(整地ダミー)	0.081 (0.036) **	0.058 (0.038)	0.022 (0.033)	0.020 (0.033)
地域ダミー				
北海道	-0.660 (0.123) ***	-0.682 (0.125) ***	-0.646 (0.123) ***	-0.644 (0.118) ***
東北	-0.675 (0.075) ***	-0.656 (0.079) ***	-0.501 (0.070) ***	-0.448 (0.075) ***
北陸	-0.349 (0.064) ***	-0.372 (0.068) ***	-0.408 (0.063) ***	-0.358 (0.060) ***
中部	-0.033 (0.059)	-0.110 (0.062) *	0.059 (0.041)	0.034 (0.042)
近畿	0.126 (0.071) *	0.083 (0.074)	0.118 (0.060) *	0.118 (0.059) **
中国	-0.266 (0.073) ***	-0.235 (0.080) ***	-0.188 (0.072) ***	-0.150 (0.076) *
四国	0.029 (0.092)	0.113 (0.111)	0.110 (0.087)	0.213 (0.084) **
九州	-0.329 (0.068) ***	-0.303 (0.070) ***	-0.246 (0.051) ***	-0.240 (0.051) ***
人口規模ダミー				
東京23区	1.526 (0.096) ***	1.430 (0.101) ***	1.203 (0.125) ***	1.095 (0.117) ***
政令市	0.800 (0.062) ***	0.719 (0.063) ***	0.484 (0.052) ***	0.424 (0.051) ***
人口20万人～50万人	0.272 (0.072) ***	0.232 (0.077) ***	0.236 (0.055) ***	0.186 (0.056) ***
人口5万人～10万人	-0.287 (0.052) ***	-0.278 (0.057) ***	-0.169 (0.045) ***	-0.180 (0.047) ***
人口5万人未満	-0.300 (0.059) ***	-0.282 (0.064) ***	-0.258 (0.047) ***	-0.273 (0.049) ***
大都市からの距離(100km)	-0.207 (0.027) ***	-0.166 (0.027) ***	-0.244 (0.025) ***	-0.205 (0.024) ***
基準化した事業費(億円/ha)	-0.001 (0.000) ***	-0.001 (0.000) ***	0.007 (0.003) **	0.006 (0.003) *
定数項	10.300 (0.106) ***	10.401 (0.113) ***	11.222 (0.137) ***	11.302 (0.129) ***
adj. R-sq	0.794	0.787	0.701	0.686
N	839	748	906	812

※*は10%水準、**は5%水準、***は1%水準でそれぞれ有意なことを表す。

※標準誤差には、不均一分散に頑健な標準誤差。

パネル・データによる分析

- クロスセクション・データでは指標化できない要因(地理的な要因、周辺環境等)による影響はすべて誤差項に含まれることになるが、それが地価に影響を与えている可能性もある。
- パネル分析では、分析者には観察出来ないが時間を通じて変化の無い地点固有の要因を考慮することが可能となる。
- 以下の推定式を用いて、固定効果モデルによりパネル分析を実施。
(2010年～2014年の5年間のデータを利用)

$$\ln(P_{it}) = c + \beta \cdot AM_{it} + \delta_t + \theta_i + \varepsilon_{it}$$

δ :時間効果(2010年、2011年、2012年、2013年)
 θ :地点固有の固定効果

パネル・データによる分析(cont.)

	(1) 全国・商業地	(2) 関東・商業地	(3) 近畿・商業地
エリアマネジメントダミー	0.001 (0.012)	0.023 (0.009) ***	0.044 (0.007) ***
2010年ダミー	0.126 (0.004) ***	0.087 (0.006) ***	0.076 (0.010) ***
2011年ダミー	0.083 (0.003) ***	0.054 (0.005) ***	0.035 (0.007) ***
2012年ダミー	0.044 (0.002) ***	0.023 (0.004) ***	0.011 (0.005) **
2013年ダミー	0.016 (0.001) ***	0.005 (0.002) **	-0.002 (0.003)
定数項	11.574 (0.003) ***	12.173 (0.004) ***	12.281 (0.007) ***
adj. R-sq	0.582	0.472	0.407
N	4357	1224	416

	(1) 全国・住宅地	(2) 関東・住宅地	(3) 近畿・住宅地
エリアマネジメントダミー	-0.007 (0.012)	0.041 (0.012) ***	-0.017 (0.011)
2010年ダミー	0.091 (0.003) ***	0.088 (0.004) ***	0.056 (0.006) ***
2011年ダミー	0.061 (0.002) ***	0.059 (0.003) ***	0.032 (0.005) ***
2012年ダミー	0.033 (0.001) ***	0.029 (0.002) ***	0.016 (0.003) ***
2013年ダミー	0.012 (0.001) ***	0.009 (0.001) ***	0.004 (0.002) **
定数項	10.774 (0.002) ***	11.088 (0.002) ***	11.249 (0.004) ***
adj. R-sq	0.561	0.586	0.510
N	4780	1580	501

※*は10%水準、**は5%水準、***は1%水準でそれぞれ有意なことを表す。

※標準誤差には、不均一分散に頑健な標準誤差。

※固定効果の推定結果は省略。

● 関東では住宅地についてもエリアマネジメントの係数が有意に正となる。

● エリアマネジメントの係数の値も0.02～0.04程度であり、もっともらしい値になっている。

ソーシャル・キャピタルの形成要因

- ソーシャル・キャピタルを高めるためには、何が必要か？
 - この点を明らかにするためには、ソーシャル・キャピタルがどのように形成されるのかを明らかにすることが必要。
 - 個人のソーシャル・キャピタルの形成に影響を与える要因として考えられるのは、
 - ・個人の属性(年齢、所得、教育など)
 - ・居住する地域の経済・社会環境(都市化の進展、経済格差など)(先行研究として、Uslaner(2002)、Alesina and La Ferrara(2002)、Iyer et al. (2005)、Helliwell and Putnam(2007)など)
- もう一つの要因として、
- ・世代間での継承(家庭内での教育・経験、遺伝?)

両親・祖父母と本人のソーシャル・キャピタル

- アンケート結果をみると、両親や祖父母が人を信頼する人だったと回答する人は自分も人を信頼すると回答する傾向がある。

問 一般的に言って、ほとんどの人は信頼できると思いますか、それとも人と接するには用心するに越したことはないと思いますか

	1:大半 の人は 信頼で きる	2	3	4	5	6	7	8	9	10:極め て注意 深く接す る必要 がある	合計	
問	1:全くあてはまらない	8 (4.4)	7 (3.9)	6 (3.3)	14 (7.8)	38 (21.1)	30 (16.7)	9 (5.0)	23 (12.8)	10 (5.6)	35 (19.4)	180 (100.0)
が	2:あまりあてはまらない	8 (0.9)	7 (0.8)	62 (7.0)	105 (11.8)	191 (21.5)	164 (18.4)	171 (19.2)	110 (12.4)	31 (3.5)	41 (4.6)	890 (100.0)
あ	3:どちらとも言えない	16 (0.5)	36 (1.2)	138 (4.4)	376 (12.0)	987 (31.5)	748 (23.9)	450 (14.4)	228 (7.3)	55 (1.8)	95 (3.0)	3,129 (100.0)
る	4:ややあてはまる	35 (1.0)	88 (2.5)	453 (12.7)	762 (21.4)	899 (25.3)	558 (15.7)	457 (12.9)	211 (5.9)	42 (1.2)	50 (1.4)	3,555 (100.0)
た	5:よくあてはまる	139 (5.0)	247 (8.9)	558 (20.0)	629 (22.6)	477 (17.1)	245 (8.8)	246 (8.8)	154 (5.5)	36 (1.3)	58 (2.1)	2,789 (100.0)
の	6:分からない	11 (1.3)	11 (1.3)	41 (5.0)	83 (10.0)	242 (29.2)	173 (20.9)	79 (9.5)	71 (8.6)	29 (3.5)	88 (10.6)	828 (100.0)
で	合計	217 (1.9)	396 (3.5)	1,258 (11.1)	1,969 (17.3)	2,834 (24.9)	1,918 (16.9)	1,412 (12.4)	797 (7.0)	203 (1.8)	367 (3.2)	11,371 (100.0)

注1: 数字は回答者数を、()内の値は回答者の割合を示している。

2: 分布割合が最も高いところを■、二番目に高いところを■としている。

両親・祖父母と本人のソーシャル・キャピタル(cont.)

- 利他性・互酬性についても親子間での関連性が見られる。

問 あなたは、以下のような考えについてどのくらい同意しますか
「人を助ければ、今度は自分が困ったときに誰かが助けてくれる」

	1:同意する	2:どちらかといえ ば同意する	3:どちらとも 言えない	4:どちらかといえ ば同意しない	5:同意しない	合計
問 1:積極的に人助けをすべき	380 (38.7)	342 (34.9)	211 (21.5)	29 (3.0)	19 (1.9)	981 (100.0)
もつはあ ついで、な てて人た いど助の たのけご とよを両 思うす親 いなるや ま考こ祖 すえと父 かをに母	1,082 (16.9)	2,993 (46.7)	1,897 (29.6)	282 (4.4)	149 (2.3)	6,403 (100.0)
3:どちらとも 言えない	288 (11.3)	717 (28.2)	1,273 (50.0)	124 (4.9)	142 (5.6)	2,544 (100.0)
4:人助けはなるべく しない方がよい	34 (17.0)	63 (31.5)	67 (33.5)	20 (10.0)	16 (8.0)	200 (100.0)
5:人助けはすべき ではない	14 (15.7)	11 (12.4)	16 (18.0)	7 (7.9)	41 (46.1)	89 (100.0)
6:分からない	136 (11.8)	230 (19.9)	581 (50.4)	57 (4.9)	150 (13.0)	1,154 (100.0)
合計	1,934 (17.0)	4,356 (38.3)	4,045 (35.6)	519 (4.6)	517 (4.6)	11,371 (100.0)

注1: 数字は回答者数を、()内の値は回答者の割合を示している。

2: 分布割合が最も高いところを■、二番目に高いところを■としている。

両親・祖父母と本人のソーシャル・キャピタル(cont.)

- 両親・祖父母が地域活動に参加していたと回答する人は、本人も地域活動に参加している。

問 あなたは地域活動に参加されていますか

		1: ほぼ毎週	2: 月に2~3日程度	3: 月に1日程度	4: 年に数回程度	5: 活動していない	合計
問 加はあ さ、な れ地た て域の い活ご ま動両 しに親 たどや かの祖 程父 度母 参	1: 積極的に参加していた	111 (7.7)	138 (9.6)	232 (16.1)	469 (32.6)	489 (34.0)	1,439 (100.0)
	2: ある程度参加していた	94 (2.1)	365 (8.2)	571 (12.8)	1,633 (36.5)	1,814 (40.5)	4,477 (100.0)
	3: どちらとも言えない	23 (1.0)	111 (4.7)	236 (10.1)	616 (26.2)	1,362 (58.0)	2,348 (100.0)
	4: あまり参加していなかった	11 (1.1)	39 (3.9)	89 (8.9)	253 (25.2)	611 (60.9)	1,003 (100.0)
	5: 全く参加していなかった	8 (1.0)	23 (2.7)	28 (3.3)	87 (10.3)	699 (82.7)	845 (100.0)
	6: 分からない	9 (0.7)	30 (2.4)	48 (3.8)	198 (15.7)	974 (77.4)	1,259 (100.0)
	合計	256 (2.3)	706 (6.2)	1,204 (10.6)	3,256 (28.6)	5,949 (52.3)	11,371 (100.0)

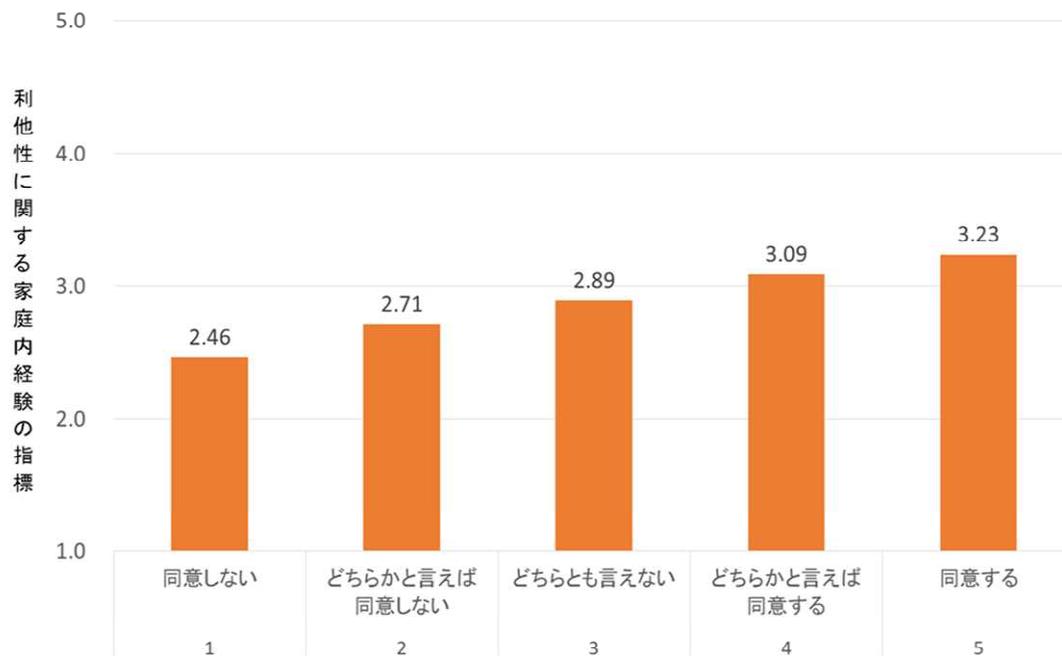
注1: 数字は回答者数を、()内の値は回答者の割合を示している。

2: 分布割合が最も高いところを■、二番目に高いところを□としている。

家庭内での経験や教育の指標

被説明変数	経験に関する変数	質問内容
互酬性の意識	利他性に関する家庭内経験	あなた自身の経験について、あてはまるかどうかをお訊きします。 子どもの頃、親や祖父母が人を助けるのをみて育った。 子どもの頃、家庭内で人助けの大切さを学ぶ機会があった。
地域資源の共有意識	地域活動に関する家庭内経験	あなた自身の経験について、あてはまるかどうかをお訊きします。 子どもの頃、親や祖父母が地域活動に参加する際に一緒に参加して育った。 子どもの頃、親や祖父母が地域活動に参加しているのを見て育った。 子どもの頃、家庭内で地域活動に参加することの大切さを学ぶ機会があった。

注) 各項目について「全くあてはまらない」から「よくあてはまる」の5段階で回答することになっており、各項目の回答の平均を利用。



互酬性の意識(問: 人を助ければ、今度は自分が困っているときに誰かが助けてくれる)

上記の質問から家庭内経験の指標を作成。

作成した指標を単純に比較すると両者には正の相関がみられる。

家庭外(地域)からの影響

家庭内経験だけではなく、地域からの影響を考慮するため、居住している地域の状況に関する質問を活用する。

あなたが居住している地域についてお訊きします。以下の項目に当てはまるかどうかお答えください。

- | | |
|------|--|
| 項目1 | 地元の小学校でのイベント(運動会等)の案内が回ってくる |
| 項目2 | 地元の自治会や町内会等のイベント(盆踊り等)の案内が回ってくる |
| 項目3 | 市役所や役場からの広報やお知らせが回ってくる |
| 項目4 | 地域での行事や活動に熱心な人がいる、もしくは団体がある |
| 項目5 | 多様な世代の人が集まる場(公民館や集会所など)があり、実際に多様な世代の人が集まっている |
| 項目6 | 新しく引っ越してきた人も地域に馴染んでいる |
| 項目7 | 新しく引っ越してきた人に対しては警戒心を持っている |
| 項目8 | 地域としての連帯感がある |
| 項目9 | 古くから行われている地域の祭りや伝統行事がある |
| 項目10 | 暗くなってからでも安心して一人で出歩くことができる |

注) 「あてはまる」「どちらとも言えない」「あてはまらない」「分からない」の4つの選択肢の中から回答を選択。
「あてはまる」を1、それ以外を0とするダミー変数として考慮。

推定結果

被説明変数	(1)		(2)	
	互酬性の意識		地域資源の共有意識	
子どもの頃の家庭内経験				
利他性に関する家庭内経験	0.104	(0.017) ***		
地域活動に関する家庭内経験			0.100	(0.013) ***
地域の状況				
地元小学校のイベントの案内がくる	-0.038	(0.032)	0.020	(0.023)
地元自治会のイベントの案内がくる	0.047	(0.041)	0.040	(0.028)
役場からの広報がくる	0.028	(0.039)	-0.024	(0.027)
地域活動に熱心な人・団体がいる	-0.025	(0.035)	0.075	(0.024) ***
多様な世代が集まる場がある	0.096	(0.033) ***	0.094	(0.025) ***
引っ越してきた人が地域に馴染んでいる	0.016	(0.035)	0.067	(0.024) ***
引っ越してきた人に対する警戒心がある	-0.040	(0.044)	-0.010	(0.034)
地域としての連帯感がある	0.132	(0.035) ***	0.154	(0.026) ***
古くからの祭りや伝統行事がある	-0.022	(0.032)	0.040	(0.022) *
暗くなってからでも一人で出歩ける	0.035	(0.029)	-0.003	(0.021)
地域環境への不満				
活気や賑わいのなさ	-0.016	(0.018)	-0.030	(0.013) **
空き地や空き家の多さ	0.006	(0.018)	-0.020	(0.012)
居住地の移動				
15歳の頃までと異なる市区町村に居住	-0.056	(0.028) **	-0.085	(0.022) ***
現在の居住地での居住年数	-0.010	(0.011)	-0.030	(0.008) ***
子どもの頃の家庭外経験				
地域の大人の利他性	0.003	(0.021)		
利他性に関する学校での教育	0.062	(0.021) ***		
地域の大人の地域活動参加			-0.023	(0.013) *
祭りや縁日などへの参加			0.052	(0.014) ***
定数項	2.573	(0.269) ***	3.177	(0.190) ***
Adj R ²	0.099		0.241	
N	5155		5155	

- 子どもの頃の家庭内経験の影響は重要。
→ 経験が継承につながる
- 地域のソーシャル・キャピタルが豊かだと個人のソーシャル・キャピタルにも好影響。
→ ソーシャル・キャピタルの外部効果
- 居住地の移動がソーシャル・キャピタルを低下させる可能性も。
→ 居住地を移動しても子どもの頃の経験は影響

注1) ()内は、グループ内(市区町村)の相関に頑健なクラスターロバスト標準誤差。

注2) ***, **, *は、それぞれ1%、5%、10%水準で有意であることを示す。

注3) 性別等他の説明変数の結果については省略している。

全体のまとめ

- ソーシャル・キャピタルの高い人は地域活動に参加する。そして、地域活動の豊かな地域は(そうした活動が行われていない地域と比べて)経済的なパフォーマンスも高まる可能性がある。
 - ソーシャル・キャピタルを高めることが地域の豊かさの向上につながる
- ソーシャル・キャピタルの形成には世代間での継承が影響しており、子どもの頃に地域活動に関する経験をもつことがその後の意識の形成に影響する。
 - 多世代での地域活動への参加を促すことが、地域活動を将来的に豊かにしていく。
- 継承された意識は、異なる地域においても地域活動への参加を促す。
 - ソーシャル・キャピタルの形成は波及効果を持っており、全国的に取り組むべき課題。

国土交通行政とソーシャル・キャピタルとの関わり

- ソーシャル・キャピタルは共有地(コモンズ)の悲劇の解決に貢献するもの。

- コモンズ ≡ 目に見える負担なしで地域のみんなが使えるもの
に関わる問題に影響する

→ 道路や公園、公共施設などの利用

住民等が主体となった維持管理、メンテナンス、
負荷をかけない使い方

地域の公共交通機関の利用

みんなで利用することで地域の足を維持

まちづくり・地域づくりにおける合意形成

ビジョンを共有して、まちづくり・地域づくりに参画

など

最後にー将来世代を考えた意思決定ー

- ソーシャル・キャピタルの高い人は、将来世代への利他性・互酬性の意識も高い可能性。
- ソーシャル・キャピタルの豊かな社会は、将来世代のことを考慮した意思決定が行われやすい？

問 一般的に言って、ほとんどの人は信頼できると考えますか、それとも人と接するには用心するに越したことはないと思いますか？

問	1: 大半の人は信頼できる	2	3	4	5	6	7	8	9	10: 極めて注意深く接する必要がある	合計
子どもや孫などの将来世代が、現在自分たちが享受している生活水準や公共サービスを維持するためには、多少なりとも自分たちの負担が増えることは仕方ない	103 (6.0)	133 (7.7)	273 (15.8)	280 (16.2)	372 (21.6)	237 (13.7)	159 (9.2)	104 (6.0)	16 (0.9)	49 (2.8)	1726 (100.0)
2: どちらかといえば同意する	72 (1.5)	206 (4.3)	717 (15.0)	1101 (23.1)	1102 (23.1)	648 (13.6)	529 (11.1)	284 (6.0)	62 (1.3)	50 (1.1)	4771 (100.0)
3: どちらともいえない	36 (0.9)	46 (1.2)	231 (5.9)	512 (13.0)	1191 (30.2)	905 (23.0)	570 (14.5)	288 (7.3)	61 (1.6)	103 (2.6)	3,943 (100.0)
4: どちらかといえば同意しない	4 (0.8)	10 (2.0)	26 (5.2)	59 (11.9)	83 (16.7)	69 (13.9)	113 (22.7)	71 (14.3)	25 (5.0)	37 (7.4)	497 (100.0)
5: 同意しない	2 (0.5)	1 (0.2)	11 (2.5)	17 (3.9)	86 (19.8)	59 (13.6)	41 (9.5)	50 (11.5)	39 (9.0)	128 (29.5)	434 (100.0)
合計	217 (1.9)	396 (3.5)	1,258 (11.1)	1,969 (17.3)	2,834 (24.9)	1,918 (16.9)	1,412 (12.4)	797 (7.0)	203 (1.8)	367 (3.2)	11,371 (100.0)

注: 最も分布割合が高いところを■、二番目に分布割合が高いところを■としている。